

令和5年度第1回幌延町まち・ひと・しごと創生会議を開催しました

～幌延町交流拠点基本構想について審議～

平成27年度から検討を進めていた「まちの拠点」について、「幌延町交流拠点基本構想」(以下「基本構想」という。)の策定に向け、11月27日に幌延深地層研究センター国際交流施設において、第1回幌延町まち・ひと・しごと創生会議(以下「会議」という。)を開催しました。

会議では、委員への委嘱状交付、委員長・副委員長選出後、野々村町長から横尾委員長へ「基本構想」の策定について諮問を行い、基本構想(素案)の審議が行われました。

今後、会議や町外の参考となる施設の視察等を通じて、基本構想の策定を進め、令和6年度以降は基本計画・実施設計、工事を経て、令和10年度のオープンを目指します。

対応が求められていることから、地域コミュニティ推進や多世代交流、町民の生活の質を高めるため、地域拠点の整備が必要。

- 1 町民が日常使用する「遊び」「居場所(サードプレイス)」「入浴」「買い物」などができることによる暮らしの快適性の向上
- 2 ワンストップ(保健福祉課窓口)による行政サービスの提供
- 3 宗谷エリアの「食」「物産」「アクティビティ」「催事」「活動」などへの誘導・情報提供
- 4 「防災・災害時の拠点」となる設備や施設の整備

○交流拠点整備のコンセプト

『町民・来訪者が憩い、集う「幌延の拠点」』

『地域住民の生活の質を高める多世代交流の場づくり』

～人口減少や高齢化による地域活力の低下が懸念されることや、公衆浴場の老朽化が進み、

○導入機能の検討

(1)憩い・集い	「多世代交流・地域交流」「多目的フリースペース」「屋内遊戯施設」「温浴施設」「軽食提供」「厨房調理設備」「会議・研修室」「コインランドリー」
(2)保健福祉	「保健福祉に関する総合相談窓口・事務」「老人福祉センター」「保健センター」「健康スペース」
(3)観光	「地場産品・農産品販売コーナー」「コンビニエンスストア」「屋外展示」「インフォメーションコーナー」「自転車貸出サービス」
(4)地域(広域)交通	「交通拠点中継ターミナル」「町内循環バス(患者輸送車両)等ターミナル」
(5)防災	「非常用発電施設」「WiFi設備」「備蓄保管庫」
(付帯施設)	「ゆったり駐車場・電気自動車充電器」「多目的トイレ」「再生可能エネルギー発電設備」

○質疑応答(抜粋)

- Q 様々な機能があるが、何がメインなのか?
- A 入浴施設、子どもが遊ぶ場所、保健福祉がメインだと考えています。
- Q 道の駅についてどのように考えているか?
- A 道の駅とする構想はありません。
- Q まちの拠点に関するこれまでの経過を知らない町民の方は、拠点について説明しても「必要ない」という声が多く、今後整備に向けた検討を進める際に不安がある。
- A 令和3年度に実施した町民アンケートでは、220名から回答をいただきました。拠点整備の必要性については、「必要と思う」が61.5%、「現状のままで良い」が30.8%、「回答なし」が7.7%と一定程度必要と回答する方が多い状況です。拠点に必要な機能については、町民の利便性向上や憩いの場としての機能が48.5%となっており、その結果に基づいて基本構想(素案)を策定しました。